

PROGRAM

1. クラリネット独奏

クラリネット：中林康子

ラヴェルの墓

Le Tombeau de Ravel Valse-Caprices
アーサー・ベンジャミン/作曲

ピアノ伴奏：作野美千枝

ベンジャミン（1893～1960）はオーストラリアのシドニーに生まれた。ロンドンの王立音楽学校で学んだ後、母校でピアノの教授になっている。通俗性を持った作風で知られ、歌劇を始めとする様々な分野の作曲をした。「ラヴェルの墓」は1958年にピアノとクラリネットのために作曲されたもので、Valse-Capricesとあるように、終始4分の3拍子で書かれており、イントロダクション、No.1～6、フィナーレと性格の異なるワルツが気まぐれに現れる。

2. メゾソプラノ独唱

メゾソプラノ：松尾南那

「ジプシー歌曲集」より

Zigeunerlieder

ピアノ伴奏：三原恵子

“私が恋人に口づけしたことを”

Lieber Gott, du weisst

“ごぞんじですか?”

Wisst ihr, wann mein Kindehen?

“さあ、ジプシーよ!”

He, Zigeuner!

ヨハネス・ブラームス/作曲

ジプシーの歌は全11曲からできている。ブラームスがかいたものの中で最も音響的な色彩が豊かな作品。ジプシーの感傷や情熱を示し、それぞれが異なる技巧を駆使している。1曲目・2曲目は軽やかな恋の歌、3曲目は激しく熱狂的である。

歌劇「月の世界」より

Il mondo della luna

“あたしのようなこんな女は”

Una donna come me

ヨーゼフ・ハイドン/作曲

歌劇「月の世界」は全3幕からなるオペラ。第1幕で召使いリゼッタによって歌われる。好色な主人が望遠鏡で見たという月の世界へリゼッタを誘う。それに反発した彼女が自らの魅力をこのアリアで披露する。

3. ピアノ独奏

ピアノ：広戸菜里

幻想曲へ短調 作品49

Fantaisie in f moll op.49
フレデリック・ショパン/作曲

ショパンのピアノ曲の中で唯一の幻想曲。1841年ショパンが31歳の時ノアンにあった恋人である女流作家のジョルジュ・サンドの家で作曲された。曲は重い足取りで、何か不吉なものを予感させるような長大な序曲で始まり、情熱的な主題やコラル風なエピソードなどその題にふさわしく、靈感豊かな楽想や感情が、それまでの形式にとらわれることなく自由に表現されている。

4. クラリネット独奏

クラリネット：梅野友子

ソナタ 作品1

Sonata op.1
レナード・バーンスタイン/作曲

ピアノ伴奏：大谷京子

1941年、バーンスタインが23歳のまだ無名の頃の作品。この作品は彼の初めて出版された楽曲で「作品番号1」と付けられている。曲は壮大な宇宙を思わせるような場面、またジャズを思わせるような所もあり、クラリネットという楽器を魅力的に引き立たせている。

5. ソプラノ独唱

ソプラノ：渡部亜弥

歌劇「タンホイザー」より“厳かなこの広間よ”

Dich, teure Hall Opera "Tannhäuser"
リヒャルト・ワーグナー/作曲

ピアノ伴奏：塩崎優子

騎士で吟遊詩人のタンホイザーは、純愛と官能的な愛との間を揺れ動き、エリーザベトとヴェーヌスの二人の女性を愛した。だが彼が属する旧弊な道徳社会は彼の考えを受け入れない。第2幕で歌われるこの詠唱は、領主の娘エリーザベトが、愛するタンホイザーと再会できる喜びを歌ったものである。

悲歌

箕作秋吉/作曲

歌謡組曲「亡き子」の中の一節。わが子を亡くした悲しみを、詩と旋律で十分に物語っている。身にしみる寒さ、荒れる海など冬の情景が浮かぶ一曲である。

6. トロンボーン独奏

トロンボーン：吉川純一

ロマンス 作品21

Romance op.21
エクセル・ヨルゲンセン/作曲

ピアノ伴奏：今岡美保

作曲者ヨルゲンセンは金管楽器のための曲を得意とし、好んで作曲してきた。この「ロマンス」は彼の友人であるアントン・ハンセンのために書かれたもので、美しく表情豊かな曲である。

「トロンボーンとピアノの為のソナタ」より第1楽章

Sonata for Trombone and Piano I
エリック・エワイゼン/作曲

エワイゼンは、最近の金管楽器奏者にとって最も注目すべき作曲家である。この曲はマイケル・パウエルによって1993年アスペン音楽祭で初演された。全3楽章からなるが、本日は第1楽章のみを演奏する。

— 休憩 —

PROGRAM

7. 箏独奏(生田流)

箏：錦織雅世

乱(みだれ)

八橋検校/作曲

「乱」は「乱輪舌」の略。「糸竹心初心集」の「輪舌」を拡大し、変奏・増補したもの。

ゆれる秋

沢井忠夫/作曲

北原白秋/作詞

1980年に作曲されたこの曲は、「歌を伴う箏独奏曲を…」という注文に従って、まさに秋の京都で着手され、北原白秋の詩が選ばれた。声で歌われる沢井作品が極めて少ない中の大事な一曲である。押し手・あと押しによるフレキシブルな音韻を頻発する前引きに導かれて、幾分か歌曲スタイル風の歌は、孤高に吟詠風に歌われる。

8. メゾソプラノ独唱

メゾソプラノ：錦織三佐子

誘い

L'invito

ジャッキーノ・ロッシーニ/作曲

ピアノ伴奏：金本智子

女性が、かつて恋に落ちた男性を再び呼び戻す恋文を、ボレロ調の伴奏に合わせて歌う。

ブラジル風バッハ第5番「アリア」

Bachians Brasileiras No.5 "ARIA"

ヴィラ・ロボス/作曲

原曲はソプラノ独唱と8本のチェロ用に、1938年ブラジルの作曲家ヴィラ・ロボスによって作られた。彼が「あらゆる人類を繋ぐ絆」として敬愛していたJ.S. バッハの作風と、自身が培ってきた民族性に基づく近代派の作曲風との融合を目指した意欲作といわれ、'45年までに書かれた9曲の連作の内の1曲である。

9. クラリネット独奏

クラリネット：高見美由紀

クラリネット協奏曲より第3楽章フィナーレ

Concerto pour Clarinette (3. Final)

イダ・ゴトコフスキー/作曲

ピアノ伴奏：秋本久美

ゴトコフスキーはフランスの女流作曲家。ロシアから移住してきた音楽一家で8才から作曲を始め、パリ音楽院でオリヴィエ・メシアンやナディア・ブーランジェらに師事し、管弦楽、室内楽、舞台音楽など幅広い分野で活躍、数々の賞を受賞している。クラリネット協奏曲は、パリ音楽院の卒業コンクール用に書かれ、エネルギッシュな作風と独特の和音、緻密な音の動き、複雑ながら生理的なリズムが特徴。

10. フルート二重奏

フルート：原 知夏

フルート：毛利さえみ

華麗なワルツ 作品33

Volse di Bravura op.33

F. & K.ドップラー/作曲

ピアノ伴奏：杉本孝一

ドップラー兄弟の作品は29曲に及ぶが、共作二重奏曲は4曲誕生した。これらの内、この「超技巧ワルツ」ほど流麗で華やかな曲は他になく、正に「華麗なる円舞曲」ということができる。

11. ピアノ独奏

ピアノ：八澤奈津美

「鏡」より“道化師の朝の歌”

Miroirs IV Alborada del gracioso

モーリス・ラヴェル/作曲

フランスの作曲家ラヴェルによって作曲された5曲からなる組曲「鏡」の中の1曲。スペインのバスク地方の音楽を素材とした曲で、道化師が恋人達に朝が来たことを告げる様子を描いているといわれる。後にオーケストラ用に編曲され、ピアノ独奏と同様有名な作品となっている。

12. サクソフォンとピアノの五重奏

ソプラノ・サクソフォン：石飛清司

アルト・サクソフォン：花田葉子

テナー・サクソフォン：小村知子

バリトン・サクソフォン：宮本美香

ピアノ：今岡美保

ハンガリー狂詩曲第2番

Hungarian Rhapsody No.2 in C Sharp Minor

フランツ・リスト/作曲

田中靖人/編曲

19世紀最大のピアニストにして交響詩の創始者でもあるリスト。彼の幾多の作品の中でもピアノ曲、管弦楽曲として最も有名なものの一つがこの「ハンガリー狂詩曲第2番」である。一聴すれば誰でも「ああ、あの曲か」と思われるほどポピュラーな名曲であり、キャッチーなメロディーを持った音楽である。本日は「ジプシー・バンド的なサウンド」を目指した編曲版によって演奏する。